

税がつくる心の余裕

学校法人関西大倉学園関西大倉中学校 2年 松本 心思

ピカピカと信号機が点滅し、はあはあと息を切らしながら白線を横切って走る。毎日それが当たり前で、なんなら「信号機のせいで汗かいた」とさえ思っていました。

私は夏休みの初め頃、旅行である国を訪れました。行く前からその国はあまり発展していないと知っていましたが、いざ足を踏み入れてみるとそこに広がる世界に私は思わず息をのみました。舗装されていない、ゴミが散らばったガタガタの道には入る隙間もないほど沢山のバイクや車。強い下水のにおいがし、信号機も横断歩道もないその街には、クラクションが鳴り響いていました。活気があって良いのですが、短い距離を渡るだけでも命の危険を感じ、いつも日本で暮らしている私にとってその状態は恐怖でした。日本には信号機が多く設置してあり、クラクションを聞くことも滅多にありません。私は日本での「当たり前」が世界では珍しいということを改めて知ることになりました。

日本に帰ってから、道路の舗装や信号機がどのように設置されているのか調べてみました。道路の整備や信号機の設置には、「公共事業関連費」、「地方交付税交付金」という名目で税金からお金が出ていることを知りました。税金が私たちの暮らしをよりよくしてくれるのです。これらの税金は、年間の国の支出の多くを占めていて、ゴミの収集、下水道の整備などにも使われています。いつも消費税などで金額が細かくなりうっとうしいと思っていた税金は、人々の安心を築いているのだと考えるようになり、視点が大きく変わりました。空気がきれいでゴミがなく、整備された道路をみんなが安心して、利用することができるのです。税金は日本の安心、安全な暮らしを作ってくれていると実感しました。

そして私は、税金から日本の人たちの心の余裕ができていると思います。例えば信号機がなかったら、事故が増えたり、渋滞ができたり、ストレスを感じることも多くなるでしょう。ですが日本は交通がしっかりと整備されており、ストレスが少なく、安心して通学や通勤をすることができます。また、信号機がないところで、歩行者と車が譲り合う様子をよく見ます。それに譲るときに怒らずに、笑顔で接する。そういう状況ができているのも税のおかげなのかもしれないと思いました。疲れながらもたくさん働いて税金を納めてくれている大人のおかげで、私たちは安心して生活することができます。

私たち未成年は納税の機会が限られていますが、私たちのために働いてくれているたくさんの人たちに感謝の気持ちと笑顔を忘れないようにしていきたいです。ピカピカと信号機が点滅し、今日も横断歩道を走って渡る。でもこれまでにはなく、信号機が、街の人たちの安心安全を守るヒーローのように見えました。